

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成26年2月22日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?act_i_on_kouhyou_det.ai_2012_022_ki_hon't.rue&amp;ji_gvosyoCd=3091500029-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/30/1/ndex.php?act_i_on_kouhyou_det.ai_2012_022_ki_hon't.rue&amp;ji_gvosyoCd=3091500029-00&amp;PrEfCd=30&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年3月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

7周年を迎え、職員は利用者及び家族との信頼関係が構築され家族のような関係ができています。その人がその人らしく尊厳を持って生活が出来るよう日々取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所開設当初からの職員も数名在職しており、職員の定着率が高く「仕事が楽しくて、いつも笑顔になる」という言葉と共に明るい表情が印象的である。利用者と職員と一緒に穏やかにゆったりとした時間を過ごしている様子は居心地の良さを物語っている。開設後7年という年月と経験を重ねる中でも妥協を許さず、一丸となってサービス向上への取り組みを進めている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“自由・尊厳・歓び”のある生活ができるよう独自の理念を掲げ管理者及び職員は理念を共有し実践に繋げている。	地域の中で自由、尊厳、歓びのある生活ができるようにという基本理念をホールに掲げている。毎月の全体会議では理念の実践に向けた意見交換の機会を持っており、管理者と全ての職員は出された意見を共有しながら、日々理念に沿った実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに運営に加わり、輪投げや飲み物販売コーナーを担当、準備から参加し交流を深めている。	地域で開催する祭りには準備の段階から運営に加わり一つのコーナーを担当する他、盆踊りやカラオケ大会等の地域の行事や、年2回の清掃活動にも参加し、地域の一員としての役割を積極的に担っている。又近所の子供達の訪問を受けての交流は利用者の楽しみの一つである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉系の学校の実習の受け入れを積極的にに行い、人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度まで年に1回の開催であった運営推進会議ではあるが、今年度は2度開催し、苑の取り組み状況及び他、報告をしサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の開催については、昨年度までは年1回程度であったが今年度は11月と2月に実施している。地域住民や家族の参加も得られ質問や意見聴取の機会となっているが、時間的な調整がつかず両回共に行政の参加が得られていない。	地域の中に溶け込み、理解や協力が得られる関係作りが出来つつあるところで、さらに運営推進会議の回数を増し、行政の参加も得る中で議事内容等を充実し、より一層意義のある運営推進会議とする事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の訪問があり、状況報告をし、助言等受けサービスの向上に活かしている。	市担当者とは役所に出向いたり、訪問を受けた際に事業所の状況を伝える事に努めており、助言を受けたり、必要な情報を得る等密な連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実行している。出入口は開放し、また言葉や態度で行動制限をしないよう配慮している。全職員は、内、外研修に参加し身体拘束とはどのような行為であるか理解が出来ている。	身体拘束をしないケアについて、職員は十分に理解しているが、さらに研修を重ねながら細部にわたって日常での言葉や態度において拘束をしないケアを徹底している。又、管理者及び全ての職員は施錠の弊害を十分に理解しており、夜間を除き、出入りは自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修等に参加をし虐待について知識を持ち利用者への対応に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に制度の対象者がいる。管理者及び職員は制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者は利用者及び利用者の家族等の不安や疑問に十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情マニュアルを作成し、全ての職員が対応が出来る体制を整えている。意見、要望には迅速に対応をしている。	家族等の訪問時や電話連絡の際に積極的に意見を出して貰えるよう、言い易い雰囲気作りに努めると共に、忘年会や運営推進会議等に参加を依頼する事で意見表出の機会を確保しながら、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ミーティングを行い職員の意見や提案を出す機会を設け反映させている。	日常業務の中で十分にコミュニケーションが図られており、職員は随時積極的に意見や提案を出している。又、毎月の全体会議でも管理者は職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し資格取得を促し、向上心を持って働くことによりサービスの質の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、内外の研修に参加をし、また自己研鑽することで、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を図り情報交換し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いに把握し抱えている不安を解消している。また要望に添い、本人が本人らしく安心して生活が送れるような関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等を把握したうえで支援に努め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を共有し、利用者及び家族にとって必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し尊敬の念を持ち喜怒哀楽が共に感じられるような関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会を大切に、情報の交換をしながら本人の暮らしの場を共有し、共に支えていく関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心して来る人や場所との関わりの継続に努めている。	これまで大切にしてきた関係が途切れないよう、本人の馴染みの美容室や墓参り等、家族の協力も得ながら希望に添って支援している。知人や友人にも遊びに来てもらえるよう声掛けをする等、訪問して貰い易いように、又、面会時にはゆっくりと歓談できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の自然な関係を大切に、また利用者同士の信頼関係が芽生えるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も必要に応じて、家族や本人の依頼や相談に応じ、これまでの信頼関係が絶たれないよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の毎日の表情や言動を観察し、職員間での共有を図り、本人の意向に添った支援が出来るよう努めている。	本人のその時々々の表情や言動を十分に観察すると共に、個々の場面を関連づける事を重視し、思いや意向の把握に努めている。得られた情報を全職員で共有しながら利用者一人ひとりの思いや意向にそった支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートの活用や本人と関わりの深かった人達からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態等を記録する事で、職員間の情報の共有を図り、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケース記録を活用し本人の現状を把握しながら、現状に即した介護計画が作成できるようにしている。	利用者の現状を詳細に把握し、関係者の意見も聴取した上で現状に即した介護計画を作成している。さらに、アセスメントについての勉強会を重ねる中で、独自に作った「個別介護計画評価表」を活用してのモニタリングを通して、現状に即した介護計画へと見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生情報を収集する事で、職員間での情報が共有出来、状態変化に対応し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態変化を察し、その時々生まれるニーズに対して柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や地域の人の協力を得て行事参加を行ったり、学校行事や祭り等の季節行事にも積極的に参加し、社会との交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけ医の往診の他、体調変化時は随時かかりつけ医に相談し指示を貰っている。また家族と相談を行いながら必要な医療機関の受診を行っている。	かかりつけ内科医の往診を受ける他、精神科への受診等必要に応じて支援しており、本人や家族等の同意を得て事業所の把握した情報を提供し適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の看護師の健康チェックを受け、利用者の状況を伝え助言を貰い、Dr往診や医療機関受診への報告に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者や家族、本人とカンファレンスの場を設け、本人が安心した医療が受けられ、また早期退院に向けての体制作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を優先し、看取り介護についての話し合いの場を設けている。決まった内容については書面に残し、随時方向性や気持ちの整理の確認を行っている。	重度化した場合や終末期の対応については十分に説明し理解を得た上で意向を確認している。実際には事業所で看取りにまで至った事例はないが、「看取り介護経過説明書」を作成した上で家族の意向を確認しつつ段階毎に話し合い、対応した経緯がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成し、随時対応出来るようにしている。また職員全員が救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を計画し、実施している。また訓練時には近隣住民の参加協力を得て、地域との連携、協力体制が築けるようにしている。	年2回消防署の立会いのもと、近隣住民にも利用者誘導の補助をお願いする等の協力を得て避難訓練を実施している。又、地域の訓練にも利用者と共に参加し地域との協力関係を築いている。	実際、夜間に水害で避難した事があるが、夜間帯を想定しての訓練実施はない。昼夜を問わず利用者が無事に避難できる方法を、訓練により全職員が習得することを目指し、昼夜及び具体的な災害を想定しての訓練実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握し、自尊心を傷つけないよう対応している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる様な言動がないよう、職員間で常に確認し合っているが、実際には守り通すことが難しい事項であると十分に認識しており、事業所全体での取り組みを強化している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動や言葉の奥にある意味を常に考え、希望の表出や自己決定をする事が出来るよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の想いを優先しながら、一人ひとりのペースを大切に、居心地の良い生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落に関心が向くよう声掛けを行い、季節に合った服装が出来るよう支援している。また馴染みの理、美容院へ定期的に出向き、整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを献立に取り入れ買い物から片付けまで共に行っている。	利用者に食べたい物を尋ねたり、売り出しのチラシを見ながら相談したりと楽しみながら考え、栄養バランスを考慮した上でメニューを決めて、毎日食材を買いに出かけ、可能な部分で力を発揮して貰いながら準備している。特に巻き寿司等を利用者と職員と一緒に調理する事で食欲が増し、さらに職員も同じものを共に食し食事が楽しみなものになるよう積極的に取り組んでいる。又、外食も利用者の気分転換の良い機会となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を活用し1日の摂取量がわかるようにしている。利用者に状態変化がある時は状態に応じてDrに相談し体力維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの習慣のない利用者には無理強いないせずつお茶の飲用を促し、自力で行えない利用者には一部介助にて行っている。また全職員が口腔ケアの必要性を理解し支援を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら排泄パターンを掴み、トイレでの排泄を支援している。また一人ひとりの習慣を把握し、落ち着いて排泄が出来るよう対応している。	排泄チェック表で確認しながら時間を見計らって声かけをして促し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。パッドやリハビリパンツの利用に際しては根拠を明確にし、一人ひとりについて見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排泄がしやすいよう飲食物の工夫を行っている。またDrとの相談の上、服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に添った入浴時間や回数を支援し、タイミングの良い声掛けを実践している。	一人ひとりの希望に添って入浴できるように時間帯を決めずに支援している。又、ゆったりと入りたい利用者には本人の意思に任せて見守り、楽しみながら入浴出来るようにしている。入浴を好まない利用者については、チーム等で工夫しながら対応し、実施に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や年齢に応じ午睡の時間を設け、夜間は眠る事に対して自然に気持ちが向くような雰囲気作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬処方をファイル化し、服薬状況の把握に努めている。また副作用も視野に入れ、本人の気持ちも聞き入れながら、減薬にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握し、共に行い、出来る事に対して喜びを感じて貰えるようにしている。また1年を通して行事を予定し、生活に張り合いや楽しみがもてるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関は施錠せず、常に自由に出入りが出来るようにしている。地域行事には地域の人達の協力を得ながら、本人の希望に添った支援が出来るようにしている。	日常的に食材の買い物や近隣への散歩に出かけると共に、正月や盆等には家族等の協力で外出が実現している。又、ドライブや花見等を年間行事に組み入れているが、時には日頃の会話の中で行きたい所の希望を聞いておいて機会を見て出かける事もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じてお金の所持をして貰っている。購入希望を聞き一緒に買い物をしたり選んだりして必要性を見極め助言を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも自由に連絡が取れる環境作りを整え、大切な人との繋がりが継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの臭いや汚れ等、不快感を感じる事がないよう清潔保持に努めている。共有スペースでは季節の花やタペストリー等を飾り雰囲気作りを行っている。	共用スペースは家庭的な落ち着いた雰囲気です。畳やソファが置かれ、季節の花が飾られて潤いを添えている。季節によっては庭で野菜を収穫したり花を育てたりと居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で一人ひとり落ち着ける場所が決まっており、自由に過ごしている。利用者同士の関わりや、独りになれる工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みのある物品を置き、本人が居心地良く、安心して過ごせるよう工夫をしている。	利用者の希望に添って使い慣れたソファやミニ筆筒、畳や仏壇を置いており、一人ひとりが落ち着いて過ごせる居室となっている。職員は、入室や声かけの際にはプライバシーの保護を常に念頭に置いての対応である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体能力に合わせ、気持ちに寄り添い過度な介護は控えながらも、安心、安全に生活が送れるよう支援している。		